

2018年9月10日

資料8 - 5

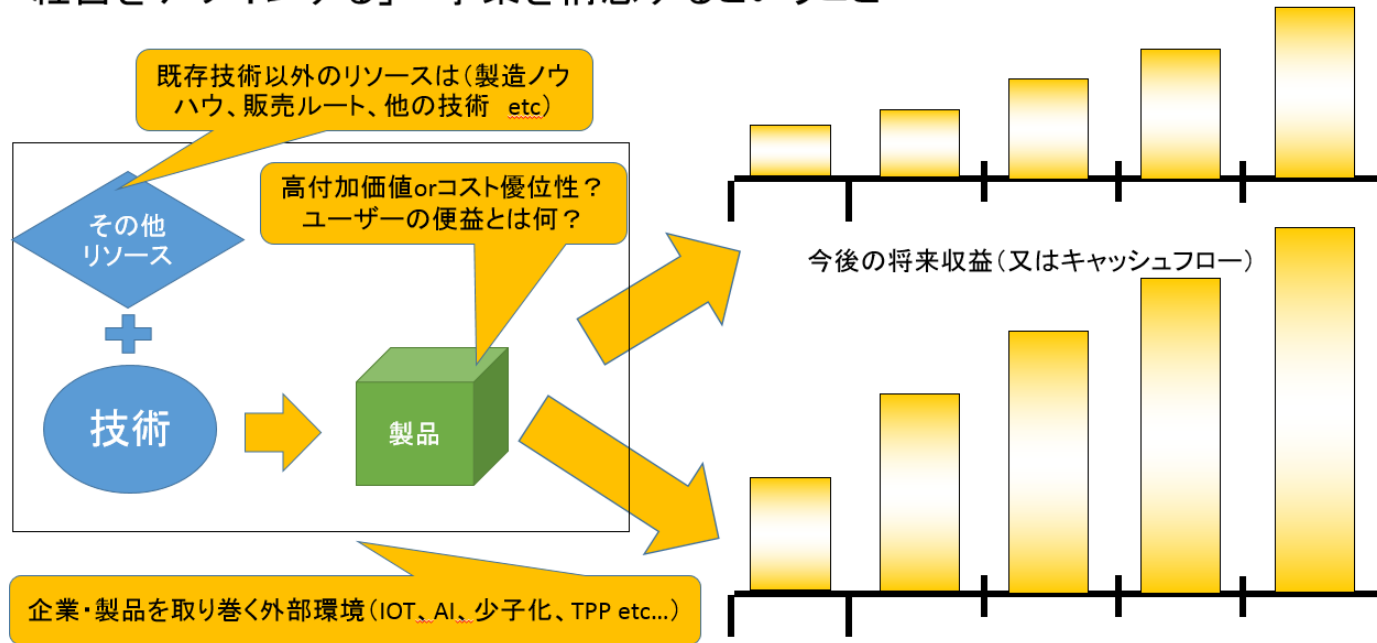
経営をデザインする

巡回特許庁 in 浜松

～既存技術を活用した新事業開発～

公認会計士
関 大地

「経営をデザインする」⇒事業を構想するということ



* 戦略とは、事業構想を具体化したもの

経営デザインシートの例



経営デザインシートを自社で作成するために気を付けるべきこと

- ▶ シートの作成自体が目的でない(あくまで新規事業開発の構想するためのもの)
- ▶ 社長または担当者が一人で悶々と悩み考えるものではない。社内外の関係者とディスカッションしながらまとめた方が新たな気づきを得られる可能性が高い
 - ▶ 企業 ⇔ 金融機関、投資家、企業支援者
 - ▶ 経営者、経営企画部門 ⇔ 研究開発部門、知財管理部門
 - ▶ 社内取締役 ⇔ 社外取締役
 - ▶ 企業 ⇔ 取引先企業
 - ▶ 経営者 ⇔ 次の経営者
- ▶ 仮説を立てながら対話 (「見える化」のみならず「磨き上げ」も)
- ▶ 書けるところから記載
- ▶ 財務的に実現可能なものであるかについて配慮しつつも、財務的な裏付けにこだわりすぎないようにする

新規事業開発の事例から得られる教訓

- ▶ 会社の「強み」を如何に把握するかがカギ
- ▶ 企業の「強み」(リソース)を見極めて活用していること
 - ▶ A社: 物件情報、B社: 加工技術、C社: 超音波振動技術
- ▶ 足りないリソースは当然ある。→企業努力で補強
 - ▶ A社: 店舗運営、B社: マーケティング
- ▶ 企業の「強み」は必ずしも知的財産権に限られない。幅広い意味での経営資源を如何に活用するかが重要
 - ▶ 一人で考えては気づかない強みもある